2018年4月26日ﾌﾟﾚｽネット掲載

広島大学 輝く学生にズームイン!!

人と人との輪を広めていきたい

OPERATIONつながり

「被災地のために何かがしたい」。2011年に発生した東日本大震災が、学生たちの心を動かし発足した。現在のメンバーは、学部生を中心に約50人。3つの事業部に分かれ、ボランティア活動を行っている。（日川）

事業部は、地域交流ボランティア事業部（以下、地域部）、海外ボランティア事業部（以下、海外部）、災害ボランティア事業部（以下、災害部）。当初は、東日本大震災の被災地でボランティア活動を行う震災復興ボランティア事業部（以下、震災部）の4部制で活動を行っていたが、昨年7月、災害部に統合した。

震災部では、11年からボランティアチームを被災地へ派遣。年に数回、仮設住宅やその周辺の世帯を訪れ、被災者の心に寄り添う活動を行ってきた。さらに宮城県の高校生が、地元の仮設住宅の支援に積極的に関われるようにサポートも続けてきた。現地に足を運ぶ一方で、東広島の小中学校や自治会などに、被災地の現状や、東北の魅力を発信する「伝える活動」にも力を入れてきた。

九州豪雨災害の被災地で流木を撤去する災害部のメンバー（2018年3月）

呉ポートピアで行われた、きんさい家の遠足風景。さまざまな人たちが交流を深めた（2017年6月）

チャム族の村の日本語学校で授業を行う海外部のメンバー（2018年3月）

東北での活動が、「災害時には、地域でのつながりが重要になる」との思いにつながりできたのが地域部だ。東広島市社協が行っている、東広島に住む障がい者とその家族、地域の子どもたちが集うイベント「きんさい家」を支援したり、地域おこしを手伝ったり、と世代を超えた交流の輪を広める活動に力を注いでいる。

海外部は、ベトナムに留学していた学生がベトナムの少数民族チャム族と出会ったことが縁で発足。日本とベトナムの懸け橋になれば、と現地にできた日本語学校の講師として参加、現地の人と交流を深めている。過去には、大学内外のイベントでベトナムの雑貨などを販売、チャム族への資金援助を行ったり、東広島で活躍する外国人を取材し、ホームページ上で紹介したりする活動にも取り組んだ。

被災地で、地域で、ボランティア活動

14年の広島土砂災害を受けてつくった災害部は、発生直後から安佐北区住民と交流する活動を続けている。熊本地震や九州豪雨災害の被災地なども訪れ、被災住民との交流を通して、いざというときに助け合えるコミュニティーづくりを目指している。一方で、大学祭などの展示や、被災地を歩く「町歩き」の活動を通して、防災意識を高めてもらう活動にも取り組んでいる。

これまでの活動について振り返る左から大槻竜也さん、森岡まどかさん、繁田京ノ輔さん

「OPERATIONつながり」というネーミングには、つながりというツールを持って向き合うことで、一人ではできないボランティア活動を可能にするという思いが込められる。サークルの代表で、教育学部3年の大槻竜也さんは「学生と地域、高齢者、外国人、そして被災者の枠を超えた、たくさんの人と人とのつながりをつくっていきたい」と力を込める。

副代表で同学部3年・森岡まどかさんは「被災地を訪れて一番感じるのは被災者の心のケア。そのためには、どうしたらいいのかを常に考え活動したい」、地域部長の同学部2年・繁田京ノ輔さんは「東広島は都市化進展している。もっと地域同士の輪が広がる交流に力を入れたい」と目を輝かせている。